

充実した大友氏顕彰フォーラム in 大分

去る10月24日(土)13:00~16:30、トキハ会館5階ローズの間にて開催されました。当日は12:00ごろから参加者が来場、入口で検温と手の消毒、マスクの有無を確認して入場していただきました。来場者には連絡先を記入していただき万一に備えました。

来場者・スタッフ併せて約200人の参加となり、定員350人の6割ほどでソーシャルディスタンスは守ることができました。

オープニングは原川二郎さんの歌、大分市歌、大分県行進曲、大友宗麟を熱唱、3曲とも宗麟公を謳ったものです。

来賓には佐藤樹一郎大分市長、麻生栄作県議会議長、秋吉貢次神奈川県人会会長、佐藤巧佐伯史談会会長をお迎えし、各位からひと言ご挨拶いただきました。



続いて大友氏顕彰会並びに大河ドラマ推進協議会会員による寸劇「大友義鎮家督相続の次第」として「二階崩れの変」を演じました。事前に全員で練習する暇もなく、少しの失敗もありましたが、逆にそれが会場の笑いを誘い、和やかな雰囲気を醸すことができました。



今回は基調講演「大友氏と小田原」を予定していましたが、コロナ禍で断念、会員のみのパネルディスカッションとしました。牧達夫会長をコーディネーターに藤田賢治会員が補佐、パネラーには大分市教育委員会から坪根伸也教育審議官兼文化財課課長、若杉孝宏大河ドラマ推進協事務局長、佐藤裕俊大友氏顕彰会副理事長の5人で進めました。大きなテーマは「大友氏のテレビドラマ化に向けて」。坪根氏以外は素人につき、思い切って夢(妄想)を語ることにしました。



第一部は「関東と源頼朝公と大友能直公」とし、学術的根拠よりもドラマ化にふさわしい能直の頼朝落胤説を根拠を挙げて説明しました。

源平合戦時の緒方三郎惟栄の豊後水軍の援軍で源氏が大宰府を掌握し源氏勝利に貢献した話や、義経を岡城に匿う寸前に失敗した話。また、大友能直のエピソードとして奥州征伐に従軍したことや富士の巻き狩りで頼朝を諫めた話、さらには巻き狩りの練習に久住高原で実施した話などしました。

続いて能直の豊後下向はなかったという説に反論。吾妻鑑に



能直の行動記録不記載が合計18年間もあるが、その間に下向したのではないかと、そしてその間「ウエツ史」編纂事業に携わった可能性にも触れました。(若杉・佐藤)

続いて3代頼泰公の蒙古襲来の神風説を否定。これは坪根さんにより学術の見地から説明、会場の納得を得たようです。一方、佐藤・若杉両人から「百合若大臣」のモデルは大友頼泰ではないかとの根拠などにも触れ、大いに夢を語りました。

第二部「宗麟公と立花宗茂公、人・物・事・ゆかりの地」として3人がそれぞれ得意とする分野を担当。二階崩れの変に関する新しい史料の紹介(佐藤)や対毛利10年戦争で非情な戦の中にも両軍ともに義理を通したエピソード(若杉)など披露しました。

続いて坪根さんから現在大友館の発掘整備から得られた新事実や様々な知見を紹介。中でも南蛮漆器の話はほとんどの参加者は初耳ではなかったのでしょうか。南蛮漆器はヨーロッパ産ではなくメイドインジャパンだった、ということでした。

また、宗麟の一生に決定的影響を与えたザビエルとの逸話や、アルメイダとの友情、さらには織田信長との関わりなど話題は多岐にわたりました。

最後には大友一族で唯一大名として命脈を保った立花氏の祖・宗茂にも触れ、テレビドラマ化に向けた各自の想いをひと言ずつ触れ、会を締めくくりました。

一部二部ともコーディネーター牧さんの巧みな誘導質問により、パネラーの想いを十分に引き出してくれたようです。

あまりに熱が入りすぎて15分ほど時間オーバーしましたが、参加者からはおおむね好評だったようです。ただ、今回に限らずですが、参加者の中には自分の関心事以外の話は眠くなるというのは仕方ないことで、今回も数人からそのような感想をいただきました。

※詳細は順次この欄で紹介していきますのでご期待ください。